



2024年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年8月14日

上場会社名 株式会社バイキューブ 上場取引所 東
コード番号 3681 URL https://jp.vcube.com/
代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 間下 直晃
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 CFO (氏名) 山本 一輝 TEL 03 (6625) 5011
半期報告書提出予定日 2024年8月14日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト・報道機関向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年12月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年1月1日～2024年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		調整後 EBITDA		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期中間期	5,619	△2.3	824	3.7	229	95.2	191	110.5
2023年12月期中間期	5,751	△13.0	794	△37.4	117	△82.6	91	△85.6

(注) 包括利益 2024年12月期中間期 36百万円 (△94.6%) 2023年12月期中間期 677百万円 (△58.5%)

	親会社株主に帰属する 中間純利益		1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	百万円	%	円 銭	円 銭
2024年12月期中間期	△212	—	△8.52	—
2023年12月期中間期	4	△99.2	0.18	0.18

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭
2024年12月期中間期	12,400	—	1,227	—	8.7	41.79
2023年12月期	12,329	—	746	—	5.0	25.62

(参考) 自己資本 2024年12月期中間期 1,081百万円 2023年12月期 621百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年12月期	—	0.00	—	0.00	—
2024年12月期	—	0.00	—	—	—
2024年12月期（予想）	—	—	—	0.00	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年12月期の連結業績予想（2024年1月1日～2024年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		調整後 EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,400	2.9	1,450	12.5	300	—	200	—	100	—	4.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
 - ② ①以外の会計方針の変更：無
 - ③ 会計上の見積りの変更：無
 - ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年12月期中間期	26,343,900株	2023年12月期	24,737,400株
② 期末自己株式数	2024年12月期中間期	466,472株	2023年12月期	466,472株
③ 期中平均株式数（中間期）	2024年12月期中間期	24,977,065株	2023年12月期中間期	24,270,928株

(5) 経営指標の算式

調整後EBITDA：営業利益＋減価償却費＋のれん償却費±EBITDA調整項目（※）

（※）EBITDA調整項目：営業収益・費用のうち、非経常または非継続事業の取引損益（M&A関連費用、撤退事業の損益等）

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 5「1. 経営成績等の概況（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	4
(3) 当中間期のキャッシュ・フローの概況	5
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 継続企業の前提に関する重要事象等	5
3. 中間連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 中間連結貸借対照表	6
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	8
中間連結損益計算書	
中間連結会計期間	8
中間連結包括利益計算書	
中間連結会計期間	9
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	11
(セグメント情報等の注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(継続企業の前提に関する注記)	12

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

当中間連結会計期間の業績は以下のとおりです。

(単位：千円)

	前中間連結会計期間	当中間連結会計期間	増減	増減率 (%)
売上高	5,751,389	5,619,366	△132,023	△2.3
営業利益	117,313	229,004	111,691	95.2
経常利益	91,009	191,582	100,573	110.5
親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に帰属する中間純損失(△)	4,393	△212,861	△217,254	—

当中間連結会計期間においては、主に企業向けの防音型個室ブースの設置販売が好調、かつ、米国連結子会社TEN Events, Inc. (旧Xyvid, Inc.) の回復が継続した一方で、国内の製薬業界の講演会の市場縮小等の影響により、売上高は前年同期比で2.3%減の5,619,366千円となりました。

営業利益については、主に前連結会計年度で実施した国内及び米国での構造改革におけるコスト削減により、前年同期比95.2%増の229,004千円となりました。

営業外損益及び特別損益においては、主に今後十分な収益性が見込まれない一部のソフトウェアについて減損損失165,296千円を計上したほか、支払利息27,728千円(前年同期比19.5%増)を計上いたしました。また、当中間連結会計期間において、繰延税金資産の一部を取崩したこと等により法人税等調整額181,874千円を計上し、親会社株主に帰属する中間純損失は212,861千円(前年同期は親会社株主に帰属する中間純利益4,393千円)となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりです。

なお、添付資料「(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項 (セグメント情報等の注記)」に記載のとおり、当中間連結会計期間より、当社グループ内の一部のセグメント区分の変更及び全社費用の配賦基準の変更を行っております。前中間連結会計期間のセグメント情報については、新しい方法により作成しており、以下の前年同期比については、新しい方法により組み替えた数値で比較しております。

I. エンタープライズDX事業

(単位：千円)

	前中間連結会計期間	当中間連結会計期間	増減	増減率 (%)
売上高	2,156,491	2,131,606	△24,885	△1.2
セグメント利益	416,219	353,419	△62,800	△15.1

エンタープライズDX事業は、主に企業や官公庁等を対象に、社内外のコミュニケーションにおけるDX(デジタルトランスフォーメーション)を支援するサービスを提供しております。

具体的には、自社開発の汎用Web会議システム「V-CUBE ミーティング」や「Zoom」の販売のほか、ディスカッションテーブル「V-CUBE Board」などの災害対策ソリューションやウェアラブルデバイスなど、企業向けのリモートコミュニケーションプロダクトを提供しております。また、顧客企業において映像組み込み型サービスの開発を容易にする「V-CUBE Video SDK」の提供やサービス開発及び運用支援をすることで、顧客企業におけるソリューション開発を支援しております。

当中間連結会計期間のセグメント売上高は、前年同期比1.2%減の2,131,606千円となりました。これはSDKの従量課金やZoomの販売などが堅調に推移しているためであります。また、収益性の高い自社製品比率の低下に加え、円安に伴う海外製品の仕入価格の上昇によりセグメント利益率は19.3%から16.6%に減少し、セグメント利益は前年同期比15.1%減の353,419千円となりました。

II. イベントDX事業

(単位：千円)

	前中間連結会計期間	当中間連結会計期間	増減	増減率 (%)
売上高	2,319,913	2,073,818	△246,095	△10.6
セグメント損失(△)	△110,275	△23,529	86,746	—

イベントDX事業は、様々な分野におけるイベント、セミナーのリモート化を支援する事業であります。

具体的には、Webセミナー配信サービス「V-CUBE セミナー」や「EventIn」などのセミナー配信プロダクトを提供するほか、イベント配信に係る運用設計、当日の配信サポートや後日のイベントデータ解析などの運用支援サービスを提供しております。

当中間連結会計期間のセグメント売上高は、前年同期比10.6%減の2,073,818千円となりました。これは、主に米国連結子会社TEN Events, Inc. (旧Xyvid, Inc.)の回復が継続した一方で、内の製薬業界の講演会の市場縮小等の影響によるものであります。また、セグメント損失は23,529千円(前年同期はセグメント損失110,275千円)と損失幅が縮小しました。これは、主に新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行の影響により、ハイブリッドイベントの増加に伴う会場費等の増加によって利益率が低下した一方、前連結会計年度で施した国内及び米国における構造改革におけるコスト削減によるものです。

III. サードプレイスDX事業

(単位：千円)

	前中間連結会計期間	当中間連結会計期間	増減	増減率 (%)
売上高	1,274,984	1,413,941	138,957	10.9
セグメント利益	383,127	469,546	86,419	22.6

サードプレイスDX事業は、自宅や職場とは異なるサードプレイス(第3の場所)の提供や運用支援を行うことで、昨今日本に浸透しつつあるテレワークを1つのワークスタイルとして定着させることを目的とする事業であります。

具体的には、企業及び公共空間への「テレキューブ」の提供、公共空間における防音型個室ブースの管理運営システムの開発、「テレキューブ」において提供する関連サービスの開発を行っております。

当中間連結会計期間では、セグメント売上高は前年同期比10.9%増の1,413,941千円となりました。これは、主に企業向けの防音型個室ブースの多様な販売モデルを通じた提供が堅調に推移したことによるものであります。

また、セグメント利益は前年同期比22.6%増の469,546千円となりました。これは、主に公共向けに提供しているテレキューブの販売台数が増加したためであります。

(2) 当中間期の財政状態の概況

(単位：千円)

	前連結会計年度	当中間連結会計期間	増減
資産	12,329,168	12,400,895	71,727
負債	11,583,111	11,173,748	△409,363
純資産	746,056	1,227,146	481,090

①資産

当中間連結会計期間末において、資産残高は前連結会計年度末比71,727千円増の12,400,895千円となりました。これは、主に売掛金残高が増加したこと、第三者割当増資に係る株式交付費16,853千円を計上したことによるものであります。

②負債

負債残高は、前連結会計年度末比409,363千円減の11,173,748千円となりました。これは主に長期借入金の返済により残高が減少したことによるものであります。

③純資産

2024年3月22日付及び2024年6月13日付で第三者割当増資の払込みを受けたため、純資産残高は前連結会計年度末比481,090千円増の1,227,146千円となりました。この純資産増加の影響により、自己資本比率は8.7%（前連結会計年度末は5.0%）となりました。

(3) 当中間期のキャッシュ・フローの概況

(単位：千円)

	前中間連結会計期間	当中間連結会計期間	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	807,729	623,352	△184,377
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,447,922	△688,620	759,302
財務活動によるキャッシュ・フロー	799,723	△126,054	△925,777
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,914,060	1,240,977	△673,083

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において営業活動により得られた資金は前年同期比184,377千円減の623,352千円となりました。これは主に、非資金項目である減損損失の計上による増加があった一方で、前年同期と比較して税金等調整前中間純利益が減少したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において投資活動の結果支出した資金は688,620千円となりました。これは主に、投資有価証券の売却による収入があった一方で、無形固定資産の取得による支出を反映したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において財務活動の結果支出した資金は126,054千円となりました。これは主に、第三者割当増資に伴う株式の発行による収入があった一方で、短期借入金の純増減額の減少及び長期借入金の返済による支出を反映したことによるものであります。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当中間連結会計期間の業績及び最近の業績動向等を踏まえ、2024年2月14日公表の2024年12月期の通期連結業績予想を修正いたしました。当該業績予想の詳細につきましては、2024年8月14日公表の適時開示資料「特別損失(減損損失)の計上及び繰延税金資産の取り崩し、業績予想と実績との差異、並びに業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において連結子会社TEN Events, Inc. (旧Xyvid, Inc.) ののれんの減損等により、親会社株主に帰属する当期純損失を計上いたしました。これにより純資産が減少し、金融機関と締結した借入契約における財務制限条項に抵触いたしました。当該財務制限条項が適用され、期限の利益喪失請求権が行使された場合、資金繰りに影響が生じるため、当中間連結会計期間末において、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせる事象が存在しております。

このような事象又は状況を解消するために、主に下記の施策を推進し、収益性をより一層改善した経営基盤の再構築を目指してまいります。

- ・主にイベントDX事業における外注費の削減を中心とした原価改善
- ・自社開発プロダクトの選択と集中による開発投資の適正化
- ・2023年に実施した経営合理化施策の延長として更なる全社費用の削減

また、財務体質の改善施策の一環として、第三者割当による新株式及び第19回の新株予約権の発行の他、プロフェッショナルワーク事業の事業譲渡を実行いたしました。

更に、当社は金融機関との連携を強めており、上記の施策に加えて、金融機関と協議の上で財務体質の改善に向けた施策を実行してまいります。これにより、今回の財務制限条項への抵触に関しても、期限の利益の喪失の権利行使をしない旨の同意を得ております。以上により、当面の資金繰りには問題なく、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

3. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当中間連結会計期間 (2024年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,389,327	1,240,977
受取手形及び売掛金	1,822,004	1,915,219
前渡金	12,210	—
前払費用	715,895	724,699
その他	90,936	823,954
貸倒引当金	△13,473	△20,004
流動資産合計	4,016,900	4,684,845
固定資産		
有形固定資産	1,964,515	2,029,612
無形固定資産		
ソフトウェア	2,042,348	2,282,760
ソフトウェア仮勘定	1,482,648	846,537
のれん	844,062	851,113
無形固定資産合計	4,369,059	3,980,411
投資その他の資産		
投資有価証券	600,176	489,123
関係会社株式	401,785	394,801
長期貸付金	35,455	40,285
敷金及び保証金	330,576	327,942
繰延税金資産	511,183	347,012
長期前払費用	66,527	56,103
その他	34,222	35,137
貸倒引当金	△1,234	△1,234
投資その他の資産合計	1,978,692	1,689,173
固定資産合計	8,312,267	7,699,196
繰延資産		
株式交付費	—	16,853
繰延資産合計	—	16,853
資産合計	12,329,168	12,400,895

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当中間連結会計期間 (2024年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	579,049	398,281
短期借入金	3,881,217	3,785,298
1年内返済予定の長期借入金	754,500	754,500
契約負債	911,791	936,892
賞与引当金	107,522	97,848
未払法人税等	34,381	38,123
その他	975,167	1,095,221
流動負債合計	7,243,630	7,106,166
固定負債		
長期借入金	3,847,500	3,470,250
リース債務	176,829	250,296
資産除去債務	289,998	319,277
その他	25,153	27,758
固定負債合計	4,339,481	4,067,582
負債合計	11,583,111	11,173,748
純資産の部		
株主資本		
資本金	92,190	310,669
資本剰余金	2,831,834	3,050,314
利益剰余金	△3,220,036	△3,432,897
自己株式	△794,791	△794,791
株主資本合計	△1,090,802	△866,705
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	93,103	100,307
為替換算調整勘定	1,619,613	1,847,942
その他の包括利益累計額合計	1,712,717	1,948,249
新株予約権	8,410	16,762
非支配株主持分	115,731	128,839
純資産合計	746,056	1,227,146
負債純資産合計	12,329,168	12,400,895

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)
(中間連結会計期間)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
売上高	5,751,389	5,619,366
売上原価	3,158,890	3,297,776
売上総利益	2,592,498	2,321,590
販売費及び一般管理費	2,475,185	2,092,586
営業利益	117,313	229,004
営業外収益		
受取利息	1,525	3,660
受取保険金	1,421	790
為替差益	5,533	—
助成金収入	1,671	2,466
投資有価証券評価益	15,353	273
持分法による投資利益	—	3,555
その他	1,654	2,327
営業外収益合計	27,160	13,074
営業外費用		
支払利息	23,207	27,728
為替差損	—	16,716
支払手数料	748	4,039
投資有価証券評価損	18,592	—
持分法による投資損失	5,463	—
その他	5,451	2,010
営業外費用合計	53,463	50,496
経常利益	91,009	191,582
特別利益		
投資有価証券売却益	—	2,912
受取和解金	10,000	—
新株予約権戻入益	—	2,160
特別利益合計	10,000	5,072
特別損失		
固定資産除却損	4,200	762
減損損失	—	165,296
投資有価証券評価損	—	7,300
リース解約損	4,238	1,114
和解金	18,852	—
事務所移転費用	10,115	—
事業再編損	7,298	—
その他	—	12,480
特別損失合計	44,705	186,953
税金等調整前中間純利益	56,304	9,700
法人税、住民税及び事業税	△13,449	26,621
法人税等調整額	45,477	181,874
法人税等合計	32,027	208,496
中間純利益又は中間純損失(△)	24,276	△198,795
非支配株主に帰属する中間純利益	19,883	14,066
親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に 帰属する中間純損失(△)	4,393	△212,861

(中間連結包括利益計算書)
 (中間連結会計期間)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
中間純利益又は中間純損失(△)	24,276	△198,795
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	29,667	7,203
為替換算調整勘定	623,609	228,329
その他の包括利益合計	653,277	235,532
中間包括利益	677,554	36,736
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	658,554	23,628
非支配株主に係る中間包括利益	19,000	13,108

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	56,304	9,700
減価償却費	485,549	529,153
減損損失	—	165,296
のれん償却額	178,796	65,991
持分法による投資損益(△は益)	5,463	△3,555
投資有価証券評価損益(△は益)	3,239	7,300
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△10,481	6,531
賞与引当金の増減額(△は減少)	16,923	△20,056
受取利息及び受取配当金	△1,525	△3,660
支払利息	23,207	27,728
為替差損益(△は益)	△5,533	16,716
売上債権の増減額(△は増加)	54,096	△17,095
前渡金の増減額(△は増加)	1,200	12,210
仕入債務の増減額(△は減少)	△109,167	△184,790
契約負債の増減額(△は減少)	139,674	133,572
前払費用の増減額(△は増加)	△33,008	△23,482
未払消費税等の増減額(△は減少)	△91,270	57,979
その他	181,071	△100,324
小計	894,541	679,215
利息及び配当金の受取額	1,387	2,260
利息の支払額	△23,363	△28,236
法人税等の支払額	△64,835	△29,887
営業活動によるキャッシュ・フロー	807,729	623,352
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△187,945	△77,648
無形固定資産の取得による支出	△902,533	△713,140
関係会社株式の取得による支出	△70,000	—
投資有価証券の取得による支出	△148,080	—
投資有価証券の売却による収入	—	102,698
敷金及び保証金の差入による支出	△65	—
事業譲受による支出	△130,000	—
その他	△9,297	△530
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,447,922	△688,620
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	1,248,838	△95,918
長期借入れによる収入	230,000	—
長期借入金の返済による支出	△384,800	△377,250
株式の発行による収入	—	419,117
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△121,329	—
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の売却による収入	—	8,050
新株予約権の発行による収入	6,250	8,352
配当金の支払額	△95,973	—
リース債務の返済による支出	△83,261	△88,404
財務活動によるキャッシュ・フロー	799,723	△126,054
現金及び現金同等物に係る換算差額	54,832	42,972
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	214,363	△148,349
現金及び現金同等物の期首残高	1,699,697	1,389,327
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,914,060	1,240,977

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

I 前中間連結会計期間(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	エンタープライズDX事業	イベントDX事業	サードプレイスDX事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,156,491	2,319,913	1,274,984	5,751,389	—	5,751,389
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	2,156,491	2,319,913	1,274,984	5,751,389	—	5,751,389
セグメント利益又は 損失(△)	416,219	△110,275	383,127	689,071	△571,758	117,313

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△571,758千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門の一般管理費であります。
2. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当中間連結会計期間(自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	エンタープライズDX事業	イベントDX事業	サードプレイスDX事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,131,606	2,073,818	1,413,941	5,619,366	—	5,619,366
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	2,131,606	2,073,818	1,413,941	5,619,366	—	5,619,366
セグメント利益又は 損失(△)	353,419	△23,529	469,546	799,436	△570,432	229,004

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△570,432千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門の一般管理費であります。
2. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当中間連結会計期間より、報告セグメントごとの業績をより適切に反映させるため、当社グループ内の一部のセグメント区分及び全社費用の配賦基準を変更しております。

当該変更による当中間連結会計期間の報告セグメントの売上高に与える影響は軽微であります。また、当該変更によりセグメント利益又は損失(△)が、「エンタープライズDX事業」で60,438千円、「イベントDX事業」で121,284千円、「サードプレイスDX事業」で62,898千円増加し、「調整額」が244,621千円減少しております。

なお、前中間連結会計期間のセグメント情報につきましては、変更後の新しい方法により作成したものを記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「エンタープライズDX事業」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当中間連結会計期間においては165,296千円であります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2024年3月22日付で、Long Corridor Alpha Opportunities Master Fund及びMAP246 Segregated Portfolio, a segregated portfolio of LMA SPCより第三者割当増資の払込みを受けました。また、2024年6月13日付で、当社代表取締役会長である間下直晃より第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当中間連結会計期間において資本金が218,479千円、資本剰余金が218,479千円増加し、当中間連結会計期間末において資本金が310,669千円、資本剰余金が3,050,314千円となっております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。